

## 手頃なカバンが欲しい

小物を入れて持ち歩く小さな手頃なカバンが欲しくて、デパートやスーパーに行くことがあるたびに、売場を覗いてみる。でもなかなか気に入ったものが見つからない。実はここ何年か、色々買ってはみたものの、どうも今ひとつ物足らず、「あら、また買ったの？」と女房に皮肉を云われたりもしているのだ。カバンは男の趣味と実益なのである。

小物入れのカバン、女性でいえばハンドバッグ。あれはポケットの少ない服装の女性だから必要なもので、男が持つものじゃないとずっと思っていた。ビジネス用の手提げ鞆は別として、男はポケットの沢山ついた洋服を着ている。背広一着にだって最少五つくらいのポケットはあるし、スボンにも四つはついている。そのほかにカバンが何でいるのだろうか、ポシェットを小脇にかかえた姿など、なよなよと気色が悪いとさえ思っていた。

ところが、齢をとってきたら、そうはいかなくなかった。財布や名刺入れやハンカチ、ティッシュのほか、老眼鏡もケースに入れて持ち歩かねばならないし、持病の薬も忘れられない。印鑑も持っていたし、携帯電話はことにかさばる。

昔は万年筆をポケットに差すのが流行みたいな事もあったが、今そんな人は見当らない。あれやこれやを全部ポケットに仕舞い込むとすると、どのポケットもパンパンにふくらんでしまって、ボタンも止まらないような不格好なスタイルになるのは目に見えている。

そこで止むを得ずカバンを持とうか、ということになった次第なのだが、これがまた一長一短なのだ。中仕切の無いものは、必要物を取り出すのに中をひっかけまわさねばならないし、仕切が多過ぎると何をどこに入れたか分からなくなる。外側がかたいのは容量に融通が利かないし、巾着型じゃ年寄りくさすぎる。加えて私には文庫本一冊が手軽に取り出せるようなのが、という注文もある。

こんなに入ってしかも小型軽量かつ高価に見えるカバンなんて、そうそう見つかるものではない。でも、カバンは男の社会への出入口とも云えるもの。売場では、じっくり眺めている男性も多い。満足できる機能のカバンが欲しいのは私だけではないようだ。